

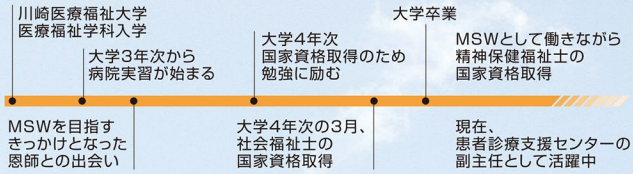
医療ソーシャルワーカー

MSWとは

Medical Social Worker

おもに医療機関において、患者さんやご家族からのさまざまな相談に応え、社会福祉の立場から問題解決を支援する専門職。関係先との調整や社会資源活用の援助により、治療中の悩みや不安、退院後の生活の問題解決に向けての支援を行ない、社会復帰の促進を図る。国家資格である社会福祉士や精神保健福祉士の資格取得でさらに活躍の場が広がる。

MSWになるために ~鈴木さんが歩んだ道~



医療に強く、実践力のあるソーシャルワーカー

今後求められる MSW

- ✓ 医療現場の実習で培った確かな実践力
- ✓ 医療・保健・福祉の問題を総合的に把握できる専門性と能力
- ✓ 社会福祉士・精神保健福祉士の国家資格取得

チーム医療に欠かせない存在

急な入院などで、患者さん、ご家族は慣れない環境のなか、不安でいっぱいになります。看護師は医療に関すること以外にもさまざまな相談を受けます。そうした際、看護師では不慣れた社会資源に関する情報や、今後の生活に関するアドバイスなど、MSWの皆さんに声をかけると、いつでも快く応じてくれ、助けられています。鈴木さんをはじめ当院のMSWはとても心強い仲間です。

岡本久美 看護師



現在、患者診療支援センターに所属するMSW全員が社会福祉士の資格を有している。院内はもちろん、院外での医療・介護・保健・福祉を統合する地域包括ケアシステム構築の一翼を担う。



MSWは医師や看護師とともに診療にも立ち会う。それぞれの視点から患者さんやご家族にとってベストなサポートを模索し、提案している。



支援している患者さんやご家族の今後について毎週ケースカンファレンスを開催。医師・看護師・薬剤師・臨床心理士・リハビリスタッフなど、多職種でよりよい支援について話し合っている。

Report!

顔の見える あたたかな サポートを

医療最前線 >>> vol.43

川崎医科大学附属川崎病院

医療ソーシャルワーカー

患者診療支援センター 副主任
鈴木智恵 Tomoe Suzuki



患者さんと医療チーム 地域と病院の架け橋として。

一〇〇五年から医療ソーシャルワーカー(MSW: Medical Social Worker)としてのキャリアを重ねてきた鈴木智恵さん。所属する「患者診療支援センター」は、患者さんやご家族が抱える療養生活を続けていく上での不安や退院後の生活についての相談支援、また地域医療機関からの紹介患者さんの受診予約、円滑な入院退院サポートなど、通院中から入院、退院後までトータルな支援を行なっている。

「退院がゴールではなく、住み慣れた場所です。その人がその人らしく暮らし、職場や学校に無理のない状況で復帰できるように支援をしています。『治す医療』でなく、『治し支える医療』です。そのためには地域の医療機関や福祉施設、在宅支援機関との強固な連携体制が不可欠です」と語る鈴木さん。

そんな当センターが現在、掲げているテーマが「顔の見える連携ネットワークの構築」。具体的に「顔の見える」の意味は？との問いに鈴木さんは「電話やメールだけでなく、患者さんのかかりつけの医師や看護師、ケアマネジャーなどの在宅スタッフや関連施設を訪ね、直接会って話をしていきます。地域で医療や福祉に携わる方々と密なコミュニケーションをとり、信頼関係を築くことがMSWの大切な役割のひとつです」。

幼い頃に祖父が脳卒中で倒れ、両親が長期間自分たちで介護を行ない、誰にも相談できず苦労している姿を見たことがMSWを志したきっかけのひとつという鈴木さん。

その後、川崎医療福祉大学で出会った恩師の熱い思いに魅せられ、MSWの道へ進むことを決意。現在、大学時代に出会った同期生や先輩の多くが現場や連携機関で活躍しており、そうした「横のネットワーク」もMSWの業務に大変役立つというとのこと。

困った時の もうひとりの家族として。

医療や福祉でも一人ひとりの生き方を尊重したサービスが求められるなか、近年、医療機関で働く「医療ソーシャルワーカー(MSW)」は急増したが、まだまだ人材が不足している。「当院では、入院初期から、患者さん一人ひとりの治療方針や退院後の社会復帰を検討する場にMSWが参加しています。病気の特徴や治療内容など医療・医学の知識が不可欠で、学生時代から学んでいることが役立っています」。「患者さんやご家族は悩みや不安を抱えて相談に来られるので、いつでも安心して相談いただけるよう、温かな声のトーンや笑顔にも気を配っています。困った時のもうひとりの家族のような存在になれたらと思っています」。

今年十二月の新病院開院に向け、さらに地域との連携を深め、サポート環境の充実に努めたいと語る鈴木さん。明るく快活な笑顔で今日も地域と病院、患者さんと医療チームの架け橋となっている。

お問合せ
川崎医科大学附属川崎病院
0862252111
http://www.kawasaki-u.ac.jp/kawasakihp/